

# 私学の魂

東海大学付属相模高等学校・中部部

## 2018年度も世界大学ランキングにランクイン 専門性の高い学部学科を幅広くもつ、 東海大学の壮大なスケールメリットを活かして 生徒の希望を星につなぐ10年一貫教育を実践

毎年注目を集める英国の「THE」(Times Higher Education)による世界大学ランキング最新版に、東海大学が前年に続いて今年もランクイン。6月に発表された「QS」(Quacquarelli Symonds)による世界大学ランキング最新版に続き、双方に名を連ねています。

日本の私立大学で双方にランクインした大学は意外と少なく、慶應義塾大学、早稲田大学、東京理科大学、上智大学、明治大学、立命館大学、同志社大学の7校。世界では、これらの大学とともに日本を代表する総合大学として信頼されており、創立から75年かけて蓄積してきたリソースは膨大で計り知れません。

学園が所有する海洋調査研修船「望星丸」という名にも込められている建学の精神「希望を星につなげ」は、全国の付属校にも息づいており、教育のすべてが自分の星に向かい、希望をもって歩み続ける力の育成に注がれています。

東海大学のメインキャンパスにもっとも近い東海大学付属相模高等学校・中部部は、世界標準のリソースを存分に活用できる環境のもとで、どのような教育が行われているのでしょうか。副校長の江崎雅治先生に語っていただきました。



副校長・江崎雅治先生

### DATA

#### 1

#### 東海大学付属相模高等学校・中部部

沿革	1963(昭和38)年	東海大学付属相模高等学校開校
	1980(昭和55)年	東海大学付属相模中学校開校
	1993(平成5)年	学校週5日制導入
	1997(平成9)年	3月、中学第1回ハワイ語学研修。
	2000(平成12)年	新制服採用。創立20周年。第2体育館落成・情報室新設
	2008(平成20)年	東海大学付属相模高等学校中部部と校名変更。
	2012(平成24)年	高校創立50周年。松前記念総合グラウンド竣工(人工芝グラウンド)
	2016(平成28)年	9月、ICT教育環境整備(各教室に超短焦点プロジェクタ設置)
	2017(平成29)年	4月、ICT教育環境整備(iPad導入)

校長 大金 真人

所在地 〒252-0395 神奈川県相模原市南区相南3-33-1  
TEL: 042-742-1251  
<http://www.sagami.tokai.ed.jp/>

交通 小田急相模原駅から徒歩8分。小田急東林間駅から徒歩20分。

## 付属校の生徒を大事に育てる風土。 『うちの子どもたち』という感覚が、 学園の中に定着している

東海大相模といえば、柔道、野球、吹奏楽などのクラブ活動が有名です。今年、行われた世界柔道2017日本代表メンバーの橋本壮市、王子谷剛志、高藤直寿の各選手も中部部の卒業生です。彼らは柔道という“星”と出会い、中高大と東海大学で努力を重ねて、世界を舞台に活躍しています。それは「希望を星につなげ」という同校の建学の精神を、体現していると言っても過言ではありません。

スポーツと同様に、学問でも生徒一人ひとりが自分の星を見つけて、それに向かい、希望をもって歩み続ける力をつけるために、学内の先生はもちろん、学園全体で支援していく……。それが東海大学の基本姿勢です。

### ■学園オリンピック夏季セミナー概要

<p><b>国語部門</b></p> <p>バラキ湖畔での吟行と句会、演劇のワークショップなどが行われます。現地で二次審査応募作品を創作します。</p>	<p><b>数学部門</b></p> <p>プロジェクト学習や大学の教員による講義を行います。疑問に挑戦し、数学に対する興味・関心を深めます。</p>
<p><b>英語部門</b></p> <p>6日間日本語使用禁止のプログラムです。英語劇を通して、英語のみならず動きや表情などを学びます。</p>	<p><b>芸術(音楽)部門</b></p> <p>音楽は開催時期・場所ともに、ほかの部門とは異なる独自のコンクール形式を採用。東京交響楽団から審査員を招くとともに、公開レッスンやアンサンブルの実習を行います。</p>
<p><b>知的財産部門</b></p> <p>暮らしを豊かにするアイデアをテーマとして発明書を作り、それぞれプレゼンテーションを行います。</p>	<p><b>ディベート部門</b></p> <p>ディベートの基本やルールを講義形式で学び、情報収集などの準備を経て、中高混合のチームで試合を行います。</p>
<p><b>理科部門</b></p> <p>大自然の中での実験や観察など、多彩なプログラムを体験しながら科学に対する理解を深めます。</p>	<p><b>芸術(造形)部門</b></p> <p>絵画・デザイン・共同制作(オブジェ)にチャレンジする中で、感性と実意識を磨き、創造することの楽しさを体験します。</p>

### 東海大学のリソースを活かした体験 日食観測プロジェクト

トピック



海洋調査研修船「望星丸」

東海大学海洋学部では、主に海洋の研究、調査、学生の実習のために海洋調査研修船「望星丸」(ぼうせいまる)を所有しています。海洋調査にとどまらず、2009年の皆既日食、2012年の金環日食では、東海大学の付属校と連携して皆既日食の様子をインターネット配信しました。多目的に活用できる船を所有している大学は、そうそうないでしょう。中学生でもその船に乗船したり、プロジェクトに参加したりできるのは、世界が認める東海大学の付属校ならではの特色です。

相模中部部から付属相模高校へ進学する生徒はほぼ100%。付属相模高校から東海大学へ進学する生徒も8割以上。多くの生徒が受験をすることなく高校、大学に進学するため、10年間一貫教育という考えのもと、付属校の生徒を大事に育てる風土です。

「学園の中に『うちの子どもたち』という感覚が定着しています。本学で長い歴史のある『学園オリンピック』には、付属校の生徒に東海大学を引っ張る人材に育ててほしいという思いが込められています」

学園オリンピックとは、生徒一人ひとりの才能を掘り起こし、その才能を開花させることを目的に、すべての付属高校・中部部の生徒を対象に、毎年開催されているイベントです。

「スポーツは1964年東京オリンピック以前に、学問(8部門)は30年ほど前に始まりました」

例年、4月にエントリーを開始し、1次審査を通過(各部門約20名/全体で約160名)すると、東海大学婦恋高原研修センターで開催される「夏季セミナー」に参加できます。ここで同じ分野に興味のある仲間と出会い、各部門の多彩なプログラムを体験したり、レポートのプレゼンテーションをしたり、大学教授をはじめ、専門家の指導を受けたりすることにより、学びの楽しさを実感します。

「生徒の能力を平均的に伸ばすのも一つですが、本学ではその子の突出している力をさらに伸ばすという方針で学園オリンピックに取り組んでいます。生徒の



数を上回る多くの教員が夏季セミナーに参加し見守る中で、表彰された生徒は自信をつけて伸びていきます。賞に届かなかった生徒も、『出会った仲間と、来年もこの場で会いたい』という思いを力に変えて、これまでに以上に好きな学びに熱を入れるようになります」

中1から高3が同じ土俵で競うため、中学生にとっては大いなる挑戦です。特に英語部門は帰国子女がいるため、実力差を痛感させられることもあります。江崎先生は「それも貴重な体験。挑戦することに意義がある」と言います。

「今年も中3の生徒が英語オリンピックに挑戦しました。夏季セミナーに参加して『きつかった』『みんなすごかった』と、打ちのめされて帰って来ましたが、(優秀な人たちを)見ることができただけでもよかったと思うのです。なんらかの気づきがあったはずなので、その生徒には『なにより耐えたことが素晴らしい。それは必ず力になるよ』と言いました」

いつ、どんな才能の芽を出すかは、誰にもわかりません。

「ふとしたきっかけで『俺、医者になる』と言い出す子がいますが、そのきっかけは学園で生活をしている中で自然と出てくるものだと思います」

受験があれば、そこに向けて急がされます。また、一人ひとりの様子に目を配り、必要な時に手を差し伸べることもできます。

## ■ 2016年度の進学実績



## 壮大なスケールの東海大学ネットワーク

2017年度

湘南キャンパス	伊勢原キャンパス	代々木キャンパス	熊本キャンパス
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 文学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>文明学科</li> <li>歴史学科(日本史専攻)</li> <li>歴史学科(西洋史専攻)</li> <li>歴史学科(考古学専攻)</li> <li>日本文学科</li> <li>英語文化コミュニケーション学科</li> </ul> </li> <li>※ 文化社会学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>アジア学科</li> <li>ヨーロッパ・アメリカ学科</li> <li>北欧学科</li> <li>文芸創作学科</li> <li>広報メディア学科</li> <li>心理・社会学科</li> </ul> </li> <li>■ 観光学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>観光学科(1年次)</li> </ul> </li> <li>■ 政治経済学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>政治学科</li> <li>経済学科</li> <li>経営学科</li> </ul> </li> <li>■ 法学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>法律学科</li> </ul> </li> <li>■ 教養学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>人間環境学科(自然環境課程)</li> <li>人間環境学科(社会環境課程)</li> <li>芸術学科(音楽学課程)</li> <li>芸術学科(美術学課程)</li> <li>芸術学科(デザイン学課程)</li> <li>国際学科</li> </ul> </li> <li>■ 体育学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>体育学科</li> <li>競技スポーツ学科</li> <li>武道学科</li> <li>生涯スポーツ学科</li> <li>スポーツレジャーマネジメント学科</li> </ul> </li> <li>※ 健康学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>健康マネジメント学科</li> </ul> </li> <li>■ 理学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>数学学科</li> <li>情報数理学科</li> <li>物理学科</li> <li>化学科</li> </ul> </li> <li>■ 情報理工学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>情報科学科</li> <li>コンピュータ応用工学科</li> </ul> </li> <li>■ 工学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>生命化学科</li> <li>応用化学科</li> <li>光・画像工学科</li> <li>原子力工学科</li> <li>電気電子工学科</li> <li>材料科学科</li> <li>建築学科</li> <li>土木工学科</li> <li>精密工学科</li> <li>機械工学科</li> <li>動力機械工学科</li> <li>航空宇宙学科(航空宇宙学専攻)</li> <li>航空宇宙学科(航空探検学専攻)</li> <li>医用生体工学科</li> </ul> </li> <li>■ 大学院</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 医学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>医学科</li> <li>看護学科</li> </ul> </li> <li>■ 大学院</li> </ul> <p>高輪キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 情報通信学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>情報メディア学科</li> <li>応用ソフトウェア工学科</li> <li>経営システム工学科</li> <li>通信ネットワーク工学科</li> </ul> </li> <li>■ 大学院</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 観光学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>観光学科(2-4年次)</li> </ul> </li> </ul> <p>札幌キャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国際文化学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>地域創造学科</li> <li>国際コミュニケーション学科</li> <li>デザイン文化学科</li> </ul> </li> <li>■ 生物学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>生物学科</li> <li>海洋生物科学科</li> </ul> </li> <li>■ 大学院</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 経営学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>経営学科</li> <li>観光ビジネス学科</li> </ul> </li> <li>■ 基礎工学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>電気電子情報工学科</li> <li>医療福祉工学科</li> </ul> </li> <li>■ 農学部           <ul style="list-style-type: none"> <li>応用植物科学科</li> <li>応用動物科学科</li> <li>バイオサイエンス学科</li> </ul> </li> <li>■ 大学院</li> </ul>
<p>[東海大学短期大学]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>短期大学部(静岡)           <ul style="list-style-type: none"> <li>食物栄養学科/児童教育学科</li> </ul> </li> <li>医療技術短期大学(湘南)           <ul style="list-style-type: none"> <li>看護学科</li> </ul> </li> </ul> <p>ハワイ東海インターナショナルカレッジ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教養学科/予科</li> </ul>			

「中学生の成長をよく知っていて、心配りができる教員が揃っているところは、本校の誇れるところ。中等部は若い教員が多いのですが、(生徒に)あわせてさせることなく、道から外れそうになったら修正して、成長を見守ることができているため、生徒は自分のペースで才能の芽を出して、自分の星を見つけています」

## 世界に認められた総合大学のさまざまな資源や最先端の学びに触れて、知的好奇心が揺さぶられる3年間

相模中等部では、学園オリンピックに一人でも多くの生徒がエントリーできるよう、知的好奇心を揺さぶる行事を積極的に取り入れています。その1つが総合大学の付属校というメリットを活かした『大学訪問』です。

入学後、まず向かうのが大学建学の地(静岡県静岡市清水区三保)。清水キャンパスには海洋学部があるので、清水港に停泊している海洋調査研修船「望星丸」に乗船したり、付属施設の海洋科学博物館や自然史博物館を見学したりします。

「海洋学部の教授が『塩分を抜いた海水に二酸化炭素を入れるとどうなる?』などと問いかけながら、生徒を巻き込んで実験をしてくれます。水が二酸化炭素を吸収することにびっくり。『飲むよ』と言われて、半信半疑で飲んでみると「本当だ。おいしい!」とまたびっくり。そこで『水が縮まったのは、二酸化炭素を吸ったからだよ。だから人間は生きられるんだ。海はすごいんだぞ』と種明かしをすると、素直に興味を持ちます。『それは永遠に続くの?』(生徒)『それを今、私たちが研究しているんだよ』(教授)。そんなやりとりをしながら研究活動への好奇心を引き出しています」

この錬成旅行とは別に、年1回、3月に東海大学のキャンパスに出向いて、大学の先生による体験授業に



中学は年1回、東海大学のキャンパスで大学の先生の授業が受けられる理科体験講座、高校では理工系体験講座など各種の特別講座がある。



入学から間もない中1の6月には、英語が母国語ではない国から東海大学にきている留学生と3日間交流。大きな気づきや刺激を得られる貴重な体験に!

参加する機会もあります。

「中1は情報通信学部に行き、AI系テクノロジーなど最先端の技術に触れます。中2、中3はその年により行き先が異なりますが、医学部や理系の学部に行くことが多いです。文系は自分で興味をもちやすいので、あえて理系の学部学科を選んでいきます。例えばソーラーカーの研究をしている工学部電気電子工学科などに行くと、本校の卒業生が大学教授とともに熱心に実験や研究に取り組んでいる姿を目にします。卒業生は身近に感じるようで、生徒はさまざまな刺激を受けています」

東海大学は目のつけどころがおもしろく、専門性の高い学部学科がいろいろあります。今、注目を集めているのは工学部航空宇宙科学学科です。日本の大学では初となる航空操縦学専攻が設置されており、航空会社や航空大学校の支援や、米国ノースダコタ大学との留学協定を背景にパイロットの養成を目指しています。そのコースにも相模中等部・高等学校出身の生徒が4名いて、希望を星につなげています。

## 英語でコミュニケーションをとるには、自分の殻を破ることが必要。スパークする機会を中1でつくりたい

中等部の先生の中にも、学園オリンピック(英語部門)をステップに人生を拓いた人がいます。

「英語が好きになったのは、付属相模高校時代と聞いています。学園オリンピック(英語部門)の常連で、優秀賞を受賞して東海大学教養学部国際学科に入学。そこで言葉を磨き、英語はネイティブ級です。ノルウェーに留学したのでノルウェー語も話せます。教員になりたいと思ったのは大学に入ってからだそう。国際学科では教員免許が取れないため、英語コミュニケーション学科の大学院で学び、免許を取得して今に至

ています」

そういう話を聞くと、自分の得意なもの、好きなものと出会い、その力をこつこつと伸ばすことの大切さを痛感しますが、「道を拓くには、『こうしたい』という自分の意思や考えを伝える力が必要」と江崎先生は力説します。

そこで中等部では、総合学習の時間を使い、伝え方や表現の仕方を学ぶ機会をつくっています。

中1の6月に東海大学で学ぶ約30名の留学生を招いて異文化交流を行うのも、伝える力の大切さを学ばせたいという意図があります。

『「なぜ、そんな早い時期に?」』『英語もままならないのに?』とよく驚かれますが、英語や異文化に壁を感じていない時期に体験するから意味があるのです』

1クラスに6、7名の留学生に入ってもらい、母国の紹介をしてもらいます。今年は中国、韓国、タイ、ベトナム、イタリア、フィンランドなどの話を聞くことができました。

「留学生とのコミュニケーションでは、やはり個人差が見られました。普段からコミュニケーションを上手に取ることができる生徒は、相手が外国人でも自然体で接していて、楽しんでいることがわかります。逆に、勇気を出せずに話せない子もいました。両者に英語ができる、できないは関係ありません。だからよけいに、効果があったのではないかと考えています。うまくできなかった子はできている子の姿を見て、なんらかの

気づきを得たはずで」

使える言葉は少なくても、伝えたいという気持ちがあればジェスチャーや表情を駆使してなんとか伝えようとすることは可能です。

「英語でコミュニケーションを取るには、自分の殻を破る勇気をもつことがもっとも重要であり、中1の異文化交流でスパークさせたいと思っています」

中2の英会話の授業でも、自分たちで劇をつくり、動画で撮るというアクティビティの中で、外国人教員が表情やジェスチャーのチェックを行います。

「コミュニケーションで言語を使うのは20%程度。むしろ表情やジェスチャーによって伝わることが多いので、自然体かどうかを重視しています。きれいな英語でなくても、心が通じ合うことができればいい。海外で、困難に遭遇し、水を欲した時に、なりふりかまわず欲求を伝えて水が飲める子どもたちをつくりたいのです。300語もっている子は300語で発信できればいい。語数は徐々に増やしていけばいいので、最初から1000語を目指すのではなく、まずはもっている言葉で伝えることが大事。自分なりの伝え方があるといいし、自分なりの英語があってもいいと思います」

## 一番大切にしているのは子どもたちの未来 好きなことに一生懸命になれる場所で、 幸せな人生を送るために必要な力をつけていく

中等部の英語教育が、単語や文法を覚えること以上に、ためらわずに英語を使うことを大事にする理由は2つあります。1つは伝わることの喜びを覚えた子は伸びることを知っているからです。だから外国人教員とナチュラルに接することができる環境づくりに力を入れています。

「そこに、英語でなければいけないという堅苦しさは一切ありません。掃除が終わったことを伝えに来た時に、日本人の先生だったら『先生、掃除が終わりました』と言うところを、『Finish!』『OK?』でいいのです。コミュニケーションが楽しくなれば、黙っていても吸収し、語彙が増えていきます」

もう1つは、高校の英語教育がアクティビティが中心の実践的な授業だからです。

「大学受験に縛られないので、高校のほうが中学よりもアクティブでおもしろい授業をしています。例えば高1では、オリジナルの教材を読み、生徒がインフォメーションシートに聞かれていることを抽出します。富士山がテーマの時はカルタを作りました」

資料を読み、必要事項を抽出する作業は、仕事に就いたあとも役立つ力です。

東海大学のリソースを活かした体験

トピック  
ハワイ研修 in ハワイ東海インターナショナルカレッジ



中3の希望者が参加する「ハワイ研修」

独自のプログラムで25年以上続いている、本校の特色ある行事の1つ。異文化に触れて、人間的な成長を促進することを目的としています。2週間、ハワイ東海インターナショナルカレッジで過ごし、ハワイやアメリカの文化を体験的に学びます。英会話の練習は、1対1からグループへステップアップしていき、最終日にはスピーチを行います。参加者の英語力に応じてプログラムを組むことができるので充実感を味わえます。この研修に参加すると、11月の修学旅行で広島を見たあと、3月にパールハーバーを見ることになり、なんらかの気づきを得られます。



「高2では絵に頼りません。ビデオレターが来て『なぜ、日本人は弁当で冷たいご飯を食べるの?』などと聞かれるので、『それはね』と応えます。その時には、まず結論を述べ、その後に理由を書くという、論理的な文章作成のパターンも学習します」

高校では、教科書を読む、重要語句に線を引く、文法をやる、入試用の問題をやる、という授業が一般的だと思いますが、付属相模高校にその授業スタイルは皆無です。

「高校でも英語をしゃべることにものおしない子をつくるための授業を行うので、相模中等部ではその授業内容に見合う基礎学力をつける、プレゼンをする、表情をつくることに力を入れています。ハワイ研修(3年/希望制)でも、「Hello」と言われたら、まず目を見る、喜怒哀楽を表す、ということを指導しています」

ハワイ研修が行われるハワイ東海インターナショナルカレッジは、アメリカに認可された単科大学です。ハワイ大学ウエストオアフ校のキャンパス内にあり、約200名の学生が学んでいます。付属相模高校の卒業生は現在7、8名が在籍しています。

ここで、日本でいう一般教養を約2年で取得すると、ハワイ大学、あるいはアメリカの大学に進学できます。アメリカ本土に渡り、カリフォルニアやニューヨークの大学に進学している卒業生もいます。

「海外経験をしたい、英語を身につけたいという生徒は、2年間ハワイ東海で学んだあと、東海大学に戻ること可能。東海大学はたくさんの姉妹校を持っているので、留学先も、英語だけでなく、中国語、ロシア語など、幅広い選択肢の中から選べます」

そういう意味では、中高で「使える英語」を身につけて、グローバルに進路を拓ける環境なので、あわてることなく、自分らしい進路を築いてほしいと考えているご家庭にはフィットする学校だと思います。

時代に対応するために、今年度の入学生から自分専用のタブレットを導入。さまざまな体験や授業の中で、疑問に思ったことを、自分で調べる習慣が身につくつあります。先生も授業に積極的に取り入れて、生徒主体の授業、相互通行型の授業が増えています。セブ島のオンライン英会話も希望者は中1から行います。また今後は、東海大学のすべての付属校と大学生は毎年、GTECを受けて目標到達度を図っていくことも決まっています。

「私たちがもっとも大切にしているのは、子どもたちの未来。大学を卒業したあとの人生を幸せに送ることができる力をつけて送り出せるよう、日々教育に取り組んでいます。夢をもって一生懸命になれるなら、そこが最高の場所。それが相模中等部であり、本学の10年一貫教育であると信じています」

## 熱いから楽しい!成長できる!東海大相模の部活動



サッカー部



陸上部



吹奏楽部



鉄道研究会